

ぎやらりー わ

NO. 6 1

2013年 1月号



●花の村内散歩 キンギョソウ (武富利美撮影)

編集・発行 NPO法人グループわ (西田圭一) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX743-3830



行楽客でにぎわう箕面の滝の紅葉 (11月21日 木田育義撮影)

紅葉の秋色を楽しむ

秋の森林浴ハイキング (わ主催) が11月21日、もみじで有名な箕面の六個山をめぐるコースで行われ15人が参加。「森の仲間」小林澄夫さん (生11) の先導で、赤や黄色に彩られた滝道、うっそうとした杉林が続く7kmの山道をのんびり歩きました。

好天に恵まれ六個山からのパノラマ風景は抜群。北摂の市街地や遠くは生駒山が望まれ「すばらしい眺めやなあ」としばし見惚れるほどでした。ただ、

箕面の滝をそれるコースだったため、紅葉も少なく一部の参加者は帰途、滝まで足をのぼしていました。

北区会 (土井昭政会長) でも11月12日、森林植物園へ親睦ハイキングに出かけました。谷上駅に16人が集合。里山和楽会が整備している「かがやき神戸」の里山を見学して、植物園へ。人出でにぎわう園内を散策しながら弁当を食べ、色鮮やか紅葉を楽しみました。



ボランティアの輪をひろげよう

61号の内容

東北支援報告会 宮城のゲストが講演 2~4面

地域交流と文化の祭典	5面	水シンポジウムIN KSC	6・7面
学習支援委員会など受賞	8面	初の福祉ボランティア大会	10面
「ボランティアの心」福原	11面	神戸文化ホール割引チケット	16面

宮城から2講師 被災体験語る

「生々しい体験発表に胸がつまった」——グループ〈わ〉の第3次東北支援チーム報告会が11月20日、カレッジホールで開催され現役・卒業生ら350人が熱心に聞き入っていました。女川・石巻から2人のゲストを招いたほか、今井鎮雄学長も飛び入り参加され、ロビーでは東北の物産販売、写真展示があり、盛りだくさんな発表会になりました。（広報・南形徹）（2・3面の写真は水嶋和信、木村成男撮影）

東北支援報告会に350人 実演や歌交え多彩な発表

午前10時、海野龍英（食16）の司会で開会。今井学長が「私も昨年夏に東北へ行ってきた。現地では今、何か必要かを考え、神戸ー東北の絆を強くして私たちができることをしよう」と語りかけました。南本伸一・福祉振興協会常務理事は「グループ〈わ〉と協同してやってきた公演活動を今後も続けたい」と挨拶。西田圭一・わ理事長も「これまで3回東北支援チームを派遣したが、来年度もやりたい」と意気込みを語りました。

第3次のリーダーを務めた芦田義和（生15）が活動内容を報告。「7月7日から1週間、17人のチームで女川・石巻・名取・仙台を訪問。仮設住宅・小学校・保育所・児童館など15カ所で昔遊び・大道芸・マジック・民謡・銭太鼓の公演を通じて仮設の皆さんや子供たちと交流してきた。喜んでもらって行った甲斐があった」と強調しました。次いで活動ぶりを記録したビデオ『震災ボランティア奮闘 第3部』（17分）を上映。

続いて、ゲストの武石久美子さん（女川町復興支援センター）が「女川町にある仮設30か所のお世話をしているが、グループ〈わ〉の皆さんの親切心・行動力に大変感謝している。私も身内を亡くしたが、悲しがつてばかりもいられない。生かされた命を大切に、地域の皆さんと生活にメリハリをつけようとかんばっている。モノを作る、一緒に食べるといったことからやっているが、今後もKSCの皆さんの力をお借りしたい」と訴えました。武石さんには第2次チームやKSCの観光ボランティアグループもお世話になっています。

3.17 生々しい猛吹雪の映像

氏家錦さん（市立仙台商業高教諭）は「炎暑の7月、南三陸でガレキ運びをやったという第1次隊の話聞いて胸が熱くなった。なんとかKSCの皆さんにお礼を、という思いで神戸へやってきた」と切り出したあと、ビデオ映像を映しながら大震災当時の体験を語りました。撮影日は3月17日。大津波で行



▲被災地の現状を語る
武石さん④と氏家さん

方不明になった夫人の両親を求めて、ワゴン車に食料や水を積んで大崎から女川まで走った時の映像です。猛吹雪、壊れた家、ガレキの山、横倒しの船・車、行き交う人々。辛うじて走れる道路。息をのむ光景が展開されており、会場は一瞬シーンとなりました。ご両親の遺体は2か月ほど後に見つかったそうですが、「よくこんな映像が冷静に撮れたものだ」との声が聞かれました。

チームの報告は、銭太鼓やマジックの実演を交えながら、阿部和子（福11）、波多野武郎（食16）内田たみ子（福10）三浦良子（国9）山田保子（音13）の5人が発表しました（要旨は3ページに）。

次いで協会チームの花城アリアさん（歌手）が登場。透き通るような声で「ピリープ」を歌った後、「初めての支援活動だったので、子供たちにはどんな曲がいいのか、勉強することが多かった。でも、子供たちの笑顔、心の優しさに触れることができ行ってよかった」と感想を語りました。

最後に、アリアさんを囲んでKSCチームと、ゲストの武石さん、氏家さん、会場の皆さんが一緒になって「ふるさと」をうたい、東北の復興を祈りました。

体験報告会は2011年に続いて2回目。今回はゲストで招いた武石、氏家さんの話が特に印象深かったようです。2人とも身内を亡くされており、体験談や近況の話の一節、一節が心の琴線ふれたのか、観客席では涙ぐむ女性もいました。



「感動した」 会場の声

「初めて被災者の声を聞いた」「ナマの声に胸が熱くなった」「大変なご苦労をされていることがよくわかった」「阪神と重ね合わせ、復興の長い道のりを思った」「何か自分ができるお手伝いをしたい」「チームの皆さん、KSCのためによくや

てくれた」など、報告会場では様々な感想が聞かれました。（＝写真⑤花城アリアさんと「ふるさと」を歌う3次チーム）

東北物産は完売

女川町観光協会とタイアップ、報告会入口で初めて東北物産を販売しました（写真）。売れ行きは大変好調で、笹かまぼこ（1000円）と牛タンせんべい（650円）は予約・即売をあわせて330個（28万6250円）、即売の女川カレー・かりんとう・さんま昆布巻きは計60個（3万8000円）が捌け、〈わ〉の収益は4万2565円でした。予約販売を中心にして支援チーム・各サークル・振興協会・カレッジ事務局・〈わ〉本部などに協力をお願いしたところ予想以上の売れ行きになりました。振興協会も宮城の作業所と連携して伊達の燻製やアイスクリームを販売しました。



5施設にXマスプレゼント

東北物産販売の収益約4万円で3次チームが訪問した名取が丘保育所・名取が丘児童センター・増田保育所・ゆりが丘児童センター・仙台六郷児童館の子供たち計420人にXマスプレゼントとしてお絵かきセット（画用紙と色鉛筆・マーカー）を贈りました。（東北支援プロジェクト）

●記録ビデオ 上映された【震災ボランティア奮闘第3部】は約17分のビデオ。水嶋和信（生12）・古後健一が撮影した画像を南形徹（生14）が構成・編集。ナレーションを筒井ちなみ（音17）が担当したものです。

【チーム6人の体験発表要旨】

- ①「銭太鼓体験教室で交流」（阿部和子）＝仮設での活動は初めてだったが、いい経験になった。石巻の日和山公園で、行商のおばさんから「神戸からよく来てくれたね」とトマトをたくさんもらった。野菜不足だったのでありがたかった。妻がまだ行方不明という焼きそば販売のおじさんからも、辛い話を聞いた。偶然の出会いだが、被災者の心の一端に触れることができた。
- ②「民謡を一緒にうたい、東北の心に触れた」波多野武郎＝公演の前に仮設で呼び込みをしたら「よく来てくれた」と声がかかり嬉しかった。ホタテの養殖が全滅してしまい「ハンデを持つ息子は どうやって生きていくんだ」と嘆く母親の話が胸を離れない。
- ③「瞳輝く明るい笑顔の子供たちに」内田たみ子＝映像を使って、現地でやった昔遊びの数々を説明。「昔遊びは子供たちの夢と生きる力をはぐくむ」と。
- ④「子供たちはマジックが大好き」三浦良子＝ある保育所で司会が、「見たいものなーに？」と聞いたら、子供たちはいっせいに「マジック！」と。嬉しかったですね。期間中、10回ぐらい出演したが、「心のケア」に少しでも役立てば、と思っている。
- ⑤「子供たちと楽しく歌ってきました」山田保子＝子供たちが、心から歌える日はいつくるのだろうか。ガレキだけが残っている現地を見て、復興はまだまだ遠いと感じた。神戸のじいじ、ばあばも応援していると声をかけてきた。
- ⑥「東北と神戸の橋渡し～子供たちの交流のために」古後健一（健18）＝神戸から持参したメッセージ、訪問先の小学校などから届いたお礼のメッセージを画像で紹介しながら、1次～3次の交流を振り返る内容だったが、時間の関係で急ぎょ割愛となった。

ゲスト2人の歓迎会

宮城県からゲスト講師に招いた武石久美子さん、氏家錦さんは11月19日午後に来神。阪神大震災記念碑などを訪れ、夕方、3次チームや有志が開いた歓迎会に出席。同夜はしあわせの村に宿泊しました。20日は報告会后に中央区の防災未来センターを見学、帰途につきました。「カレッジの皆さんの温かいもてなしに感謝します」とのことでした。

仙台・豊齢学園と協働で支援活動

これからの東北支援活動について、仙台の「豊齢学園」と協議を重ねていましたが、昨年10月末に「来年(25年)から連携して活動しましょう」との合意が得られました。実際の活動は、学園の卒業生グループで作る「せんだい豊齢ネットワーク」と協同で行うことになります。

手始めに、7月ごろ女川町で七夕飾りの講習会や料理教室を実施することにしました。ディスコン(仙台で広く行われているカーリングに似た軽スポーツ)やペタンクの親善試合も考えています。



豊齢学園はシルバーカレッジと同じような生涯学習施設で2500人の卒業生がいるそうです。その卒業生が折り紙や写真、

料理、おもちゃドクターなど様々なクラブ活動やボランティア活動をしています。全部で30ほどあるそうしたグループをまとめているのが豊齢ネットワークです。

一方、しあわせの村の福祉振興協会とは、今年も東北支援活動を一緒に



やる予定になっており、そこに豊齢ネットが加われば、より多彩で現地の要望に即したきめ細かなプログラムを組むことが可能になります。

グループ〈わ〉の支援活動も3年目を迎えますが、〈わ〉と振興協会、豊齢ネットが一体となって、被災者に喜んでもらえる支援活動に取り組んでみたいと思っております。(東北支援プロジェクト・海野龍英) =写真=女川町に店開きした仮設の商店街⑤と豊齢学園のサークルが作った七夕飾り(高さ約50㍍)

被災地の子供たちから

お礼のメッセージ続々

「カレッジのみなさんありがとう」――東北支援チームが訪問した小学校・保育所・児童館などから、かわいいメッセージや絵・紙工作・写真集が次々と〈わ〉事務局に届いています。訪問する際は、神戸の子供たちが書いた励ましのメッセージを預かって持参していますが、現地では、こちらが恐縮するほど喜んでくれ、壁一面に張ってあります。1年前のメッセージもちゃんと残っており、私たちもびっくりしたり感激したり。

メッセージの交流は古後健一さんたちの発案です。第1次派遣に際して、「物資以外に何か届けるものがないか」と考え、日頃、ボランティアで訪問している地元の小学校や児童館にお願いしたのがきっかけです。どれも快く引き受けてくれ、短期間で多くの寄せ書きやメッセージが集まりました。

以後、2次・3次チームもメッセージを持参することにしました。近頃では、神戸と被災地の小学校同士、児童館同士の交流も始まっており、交流の輪の広がりに私たちも喜んでいきます。

2次・3次で訪問した名取市・増田保育所の阿部勢津子所長から届いた礼状の一節を紹介します。

〈昨年に引き続き本年も遠い宮城・名取まで足を運んで頂きましてありがとうございました。子ども達は皆様の思いに、こぼれんばかりの笑顔と驚きと、様々な体験を、あの短い時間にさせて頂きました。充実した時間でした。(以下略)〉。(16面に写真)

年末には、Xmasプレゼントの礼状も届き私たちも温かい気分で新しい年を迎えることができました。

サポート募金のご報告 (10月1日~12月25日分。敬称略)

2012音文交歓会7673円、川柳クラブ3千円、横井正昭(国6)千円、K.A(福11)1万円、未来館募金箱5千円、柴田久栄(生13)5千円、フランス文化研2万円、支援報告会募金箱5250円、募金箱281円。計5万7204円。

〈わ〉への入会勧誘を

グループ〈わ〉の入会受付が1月8日から始まりました。「再び学んで他のために」を仲間と共に実践する場です。現在の会員は約1300人。学習支援・電話相談・各種イベント事業・地区会活動・サークル活動など多彩なボランティア活動を展開しており、一昨年からは東北支援活動にも取り組んでいます。今年はカレッジ創立20周年を迎え、私たちの活動分野もより広がります。この機会に後輩や知人に声掛けをして会員を増やしましょう。ご協力をお願いします。問い合わせは、〈わ〉本部(TEL743-8101)まで。

躍動するキッズ & 円熟のシルバー



地域交流と文化の祭典 19グループが熱演

さわやかな秋空が広がった10月20日、第3回「地域交流と文化の祭典」がカレッジ・ふれあい両ホールにて開催されました。この催しは、グループわ文化部会が総力をあげて2月前から準備。今年は、子ども団体が7グループとなり、文化部会の12クラブに併せて、19グループとなりました。（事業部：井口久美子 写真：木村成男）

10時過ぎ、「北神戸太鼓団Don努鼓」による力強い和太鼓の演奏で幕開け。午前、午後と合計19演目が演じられ、手話ソング同好会は、3か月かけて振付をした、東北の応援歌「花は咲く」を披露。最後は15時30分、混声合唱団コーロの美しいハーモニーで幕を閉じました。どのグループも、シルバーの円熟と子ども達の躍動感溢れる演技に、会場は終日、大きな拍手と歓声に沸きました。

ふれあいホールでは、「絵手紙クラブ」や同窓会会員による絵画、写真、陶芸、俳句、川柳を展示。来場者を楽しませてくれました。

中でも、熱演ぶりが際立ったのは、西区の中1・2年生の女子4人のロックダンス（チーム名：ベイビーキー）。メンバーの息もぴったりで、素晴らしいリズム感と、躍動感溢れる踊りに観客は釘付け。割れんばかりの拍手・喝さいを浴びていました。メンバーは、息を弾ませながら、「楽しかった」「思う存分踊れた」と、晴れやかな笑顔でした。ケアハウス「まんてん垂水」から、職員とともに7人のお年寄りが来場。午後1時間半程度の観賞でしたが、日頃からボランティアに伺っているクラブ員とは、顔なじみの関係。「どの演技も楽しかった」「箱を

使ったマジックで、人が入れ替わったのには驚いた」「また来たい」と、楽しそうに話してくれました。

会場で熱心に鑑賞していた、海野龍英さん（食文16期）と宮里寿子さん（国9）に感想を聞きました。

海野さんは「祭典を通してたくさんさんの感動と夢をもらった。中でも、今年は子供たちが主役になったことは、とても嬉しく思いました」と。

宮里さんは「印象に残った演目は、どどみくらぶとSCハワイアン。でも、先日の学園祭より盛り上がり欠けるのは何故かな？ 各グループの技量は上達しているが、何か全体を貫く連帯感のようなものが、不足しているように感じました」と話してくれました。世話役の小林精一・部会長は「子ども団体が7組に増え、充実した。あとは、集客をどうするかが課題。開催の時期やPRの方法を検討する」と総括していました。

【出演団体】KSCハワイアンフラ、大正琴プリムラ、おはなし糸車、KSC手話ソング同好会、KSC男声合唱団、SCハワイアンズ、KSC民謡クラブ、KSCマジッククラブ、わらべ、詩吟同好会、うらしまたろう、混声合唱団コーロKSC〈子ども団体〉＝北神戸太鼓団Don努鼓、どどみくらぶ、G★clef、DANCE SCHOOL ひよっこ、静山会津軽三味線、六甲道児童館銭太鼓クラブ&楽遊クラブ銀雅、神港園踊踊クラブ。

＝写真は銭太鼓の競演④と鑑賞する施設の人たち



〔命の水〕の大切さを考える

命の源——〈水〉を考える「水シンポジウム IN KSC」が2012年11月16日、カレッジホールで開かれ水にまつわる8人の講演や研究報告に現役、卒業生250人が耳を傾けました（シルバーカレッジ主催・グループ〈わ〉など共催）。この催しは、「生物多様性（2010年）」、「六甲山（2011年）」に続く交流フェアの3回目。
（まとめ 広報・池田惇、南形徹）

「水シンポ」8人が講演

最初に大久保卓也氏（琵琶湖環境科学センター総合解析部門長）が「琵琶湖の水質の長期的変化と流域環境の変化」のテーマで基調講演。「地球の水は無尽蔵ではない。海水をのぞくと利用できる水はわずか。これを農業・工業・生活に利用しているが先進国と途上国とでは利用量にも大きな格差がある。輸入食糧にも水が使われているので、食料自給率の低い日本（40%）は、水の自給率も60%しかない」と前置きし、琵琶湖の水質について報告しました。

「琵琶湖は近畿の水がめとして、これまで汚濁防止・富栄養化防止（窒素・リンの削減）の対策が進められてきた。下水道整備・水田整備・洗堰での水量コントロールなどによって、赤潮は減少し透明度も上がってきたが、一方で、漁獲量の大幅な減少・水草の繁茂・外来生物の侵入（アユなど在来種の減少）などの難題が指摘されるようになった。水清ければ魚すまず、というように水質が良くなったからといって、生物が豊かになるとは限らない。生物多様性の視点から、今後は生態系を重視した多面的な水環境の整備がのぞまれる」と訴えました。このあと、水の効用や水辺の再生などのテーマで、7氏が発表しました。

神戸ウォーターを味わう

最後に、全員で「川の流れるように」を歌い散会しました。生環の共通授業だったので、会場は現役・卒業生が大半。水道局から布引の”神戸ウォーター”が提供され、参加者はおいしい水の大切さを実感していました。昼休みにはホールにピアノ演奏が流れ、ロビーでは水に関するパネルやカレッジ学生による写真が展示され、参会者を楽しませてくれました。

【研究報告の発表要旨】

▼「水と暮らし～その歴史的発展」松下真氏（神戸市水道局センター所長）＝古来、「水」と「暮らし」は相互に密接に結びついた存在であり、「水」のないところに「暮らし」は成り立たない。最初は四大文明のように川のほとりで水を使いながら文明を育んできた



が、その後、水を利用する技術が進み、文化や生活のレベルが発達してきた。水の水量調整から灌漑技術が、水の長距離大量輸送のためにローマの水道が、蒸気機関を使ったポンプによる揚水、大量に水を貯蔵するダム建設から大規模土木施設が生まれ、今では、すっかり普及した水洗トイレへと発展してきた。

▼「水と健康」西村典芳氏（神戸夙川学院大学教授）＝「病気になるのも治すのも、長生きするのも、すべてこの世は水しだい」などという人がいるくらい、水と健康は密接な関係にある。地球は水の星、地球の70%が海、つまり「水」で占められており、地球上に住むあらゆる生物、植物などはその恩恵をたくさん受けている。南スラソス・ピレネー山脈の麓にある「トレドの泉」は“飲水治療”で有名な泉で、どんな病気でも治してくれる「奇跡の水」として世界中で評判になり、毎年300万人もの人が訪れるといわれる。このようにヨーロッパを中心に古くから水は病気を防ぎ、治す力があると、信じられてきました。

▼「きれいな水と豊かな水～命育む水づくり」島本信夫氏（NPO法人豊かな森川海を育てる会会長）＝地球は「水の惑星」といわれる。この水のお陰で豊かな生態系が形成され、私たちは水や大気の浄化装置でもある生態系から大きな恩恵を受けて暮らしている。中でも日本は豊富な水資源に恵まれている。高度経済成長期に水質の悪化が進んだが、その後様々な環境対策が講じられ、下水道の普及に伴い水質は大きく改善されてきた。一方で富栄養化が進み、生物の生息環境が変化し魚類などが生息しづらくなったところもある。単にきれいなだけでなく、豊かな生態系を支える「命育む豊かな水」づくりに努めてゆかなければならない。

（写真①＝ロビーで展示された水関係の写真や資料）

水 水 水 水……多様な取り組み学ぶ

生環コースコーディネーター 北尾進

今回のシンポジウムは第1回の「生物多様性」、第2回の「六甲山」に続く第3回目の交流フェアとして開催しました。第1回目から「グループわ」の皆様には大変なご協力を頂き心からの感謝を申し上げます。

また、「水写真展」や「シンポ」の受付や記録では生環コースの学生の皆さんも積極的にご協力いただき、まさに学生、卒業生の皆さんが力を合わせて成功させた「シンポ」だったと思います。

今回は、十分な準備ができず、講師の方々や参加いただいた皆様にご迷惑をおかけいたしましたことお詫び申し上げます。にもかかわらず予想を上回る参加者で途中で資料の増し刷りをしたような状況でした。また、参加者アンケートを見ますと74%の方が「とてもよかった」「よかった」とこたえていただき本当にありがたく思っております。

今年、「水」をテーマとしましたのは、世界では安全な水を飲むことができず多くの尊い命が失われて、国連は2005年から2015年を「命のための水：国際行動の10年」と定めて各国での取組を促しています。

一方、私たち神戸市民は度重なる水害や「阪神淡路大震災」で水の怖さや大切さを痛いほど体験したにも関わらず、蛇口をひねればいつでも水を利用できる日常の中で、水のありがたさや大切さ

などを忘れがちになっています。

このような中、私たち人間と水との関係を考える「場」として「水シンポ」を開催しました。

おかげさまでよい講師陣に恵まれ、琵琶湖から海に至る多様な水をめぐるシーンで様々な取組がなされてきていることをつぶさに学ぶことができたと思います。



「イルカと遊ぶ」 水の写真
応募作品 柏木正 (美19)

水をめぐる問題は、「シンポ」で触れた問題以外にも「産業」「景観」「歴史」など様々な問題があります。今後の課題としたいと思います。

私たち人間も他の生き物も水がないと生きていくことはできません。この水のことをこれからも真剣に考えていく必要があると思います。

これからも「交流フェア」を続け、カレッジを卒業された多くの方々にカレッジに来ていただき、カレッジの学生との交流がこれからも大きく広がっていくことを期待しております。

▼「湧水を次世代に」神戸うまい水探索グループ (KS C生環コース15期生) =神戸の水はうまいといわれる。カレッジのグループ学習で調査した神戸市内外の37か所のきれいな「湧水」について紹介。湧水は環境汚染のバロメーターであり、地域の文化遺産でもある。湧水は災害時の水の確保にとっても、欠くべからざるものだ。湧水は環境学習、観光資源としても大変重要なので、湧水の保全はきわめて大切であり、我々のできることを提言したい。

▼「地域の水辺を再生する」豊田光世氏 (兵庫県立大学講師) =河川整備や自然再生を進めていく際の基本的な考えとして、市民が参加する機会を事業実施のプロセスに組み込むことが重要だ。里山と同じように「里川」の概念の導入を提唱する。流域で暮らす人々が望む川づくりのため、計画段階から積極的な市民参加を求める事業が徐々に増えつつある。水辺再生にかかわるボトムアップの例として佐渡の加茂湖の工事を紹介したい。

▼「雨と災害～六甲山を事例として」神野忠広氏 (六甲砂防事務所長) =雨は水がこの地球上で循環していく過程における一つの形態。雨から多くの恩恵を受けているが、その一方で豪雨などで引き起こされる災害により貴重な生命や財産が失われていることもまた事実だ。六甲山は神戸・阪神地域の象徴であり、住民の憩いの場でもあるが、ひとたび牙をむくと大きな災害を引き起こす可能性を持っている。過去の災害事例を挙げて説明したい。

▼「水の再生と活用」永木郁郎氏 (神戸市建設局東水環境センター長) =下水道は目立たぬ存在であるが、生活環境の改善・浸水の防除・公共用水域の水質保全・下水道資源の活用など、重要な役割をはたしている。神戸市が取り組んできた水の再生、水環境の復活、さらに水の活用の事例を基に、その目的、方法、高度処理技術、効果などを紹介。併せて水の尊さ、自分達ができること、してはならないことを列挙し、今後の方向性について提言したい。



育ちゆく

花実の森

④



春へ…里山作業は続く

つい先日まで、枝々に“こがね色”に変身させた葉で飾り付けをしていた里山の木々も、今はすっかり葉を落とし、冬の姿で眠りについています。ここを棲み家とする多様ないきものたちも、あるものは地中で、あるものは落ち葉をふとんに、またあるものは繭にくるまって越冬態勢にはいりました。しばらくは静かな里山の世界となります。

この間、里山整備プロジェクトの作業は、枯葉の落ち葉をどんどん集め、サンタクロースの袋のように詰めておき、やがて来る春には、子どもたちに楽しみ・学んでもらう『自然環境体験学習』

の教材に使います。また、間伐した木々の小枝をチップ化し、カブトムシの寝床づくりや、草花を育てる堆肥づくりの準備を始めるのもこのころからです。いろいろ夢膨らませ、里山のぬくもりを感じながらの活動が今日もつづきます。(花実の森プロジェクト 菅田 忠志)

＝写真＝教材用に落ち葉を集めて袋詰に



神戸の未来を担う子ども育て賞

学習支援委員会が受賞

学習支援委員会（加藤勇治委員長）が神戸市教育委員会の「神戸の未来を担う子ども育て賞」を受賞し、12月13日、総合教育センターで表彰式が行われました。学習支援委員会が平成17年から神戸市内の小学校約50校で展開している学習支援・特別支援活動が評価されたものです。

表彰式には西田理事長と加藤委員長が出席。他の受賞13団体と共に、神戸市長から表彰状と副賞の楯を受け取りました。同賞は、神戸っ子の育成に尽くした活動を顕彰するもので、平成17年に制定。受賞するのはグループ〈わ〉でも初めてのことです。

加藤委員長は「私たち支援委員の地道な努力が認められてうれしい」と話しています。

ト音記号と増金さんに感謝状



施設や地域で長年にわたって奉仕活動を続けてきたト音記号（千原美哉子代表）と増金スミ子さん

グループ〈わ〉に愛の輪賞

思いやりや助け合いの心を育む「愛の輪運動」への貢献が認められ、グループ〈わ〉に24年度「愛の輪賞」が贈られることになり12月24日、市総合児童センター（中央区）で表彰式が行われました。同賞は平成2年、ふれあいのまちKOBE・愛の輪運動推進委員会によって制定されたもので、表彰式には西田理事長が出席しました。

この日は、「愛の輪ふれあいコンサート」も開催され、〈わ〉傘下のSCハワイアンズと一寸奉仕が賛助出演。手話シンガーの渡辺りえこや「コウベリーズ」に混じって見事な演技を披露しました。

（福11）に、神戸市社会福祉協議会から24年度の感謝状が贈られました。ト音記号グループは平成18年に結成され会員は7人。北区にあるハーモニアスなどを訪問し、入所者の話し相手になったり、手品を披露したり、一緒に歌ったりしています。「しんどいこともあるが、できる限り活動はつづけたい」ということです。

増金さんは地域のお年寄りのために「アットホームますかね」というふれあい喫茶を始めて7年。自宅を開放し、月2回、メンバー8人が交代で世話をしています。毎回、5～10人の参加者があり、昼食を共にしながら大道芸を披露したり、おしゃべりを楽しんだりしています。＝写真はト音記号の活動風景

整髪でさっぱり…笑顔の入所者

須磨・中央・北区会

入所者の髪にドライヤーをかける中道さん(左)と細野さん

ボランティア最前線



「きれいな髪になりましたよ」。中道紀子さん(生13)の声かけに、おばあちゃんは嬉しそうにニコリ。ここは、須磨区にある特別養護老人ホーム「サニーライフ白川」の特殊浴槽室前の廊下です。

10月26日、入浴後の整髪ケアボランティアを13年続けている、須磨区会の活動に同行取材しました。この日のスタッフは、細野恵久代表(福3)と中道さんの2人。ワゴンには、ドライヤーやクリーム、タオル、ブラシなど整髪に必要な用品が人数分用意されています。

入浴は1人ずつ。施設職員が介助するので、スタッフは浴室前で待機。「お願いします」の合図で、車椅子を押して鏡の前に誘導します。

さあ、ここからが本番です。会話が難しい人、座位が取れない人、手足にマヒが残っている人…。お年寄りの身体状況は様々ですが、不安を抱かせないよう動作が代わる度に「声かけ」。慎重に表情を読み取ながら作業を進めていきます。約10分後、「はい、すみましたよ」。エレベーターで下の階まで送ります。この日は、入浴者が6人と少なかったため、いつもより早く終了しました。

待ち時間は、入所者の皆さんとおしゃべり。身の世話や孫の話。時には悩みの相談まで。これも、入

所者にとっては楽しいひと時のようです。

施設開設と共に歩んできた整髪ボランティア。今ではなくてはならない存在となっています。



「長年続いている、魅力と秘訣は何でしょう」と、細野代表に問いかけました。「おばあちゃんたちの笑顔」、「施設との信頼関係でしょうね」。それと、「無理をしないことです」と。

3区会が整髪ボラ

各区会では、様々なボランティア活動に取り組んでいますが、「入浴後の整髪ケア」ボランティアもその一つ。須磨区会(会員4人と有志)のほか中央区会(元田弘忠代表・会員3人)と北区会(淡路

忠義代表・会員10人)も長年続けています。

共通の悩みは、登録メンバーが年々減少していること。今のメンバーも高齢化しており、継続するためには世代交代が欠かせません。従来2人態勢で行ってきた当番も、メンバー不足のため、北区会を除いて1人でせざるを得ないのが、現状のようです。

取材を終えて 整髪ボランティアを初めて見学しました。適切な声かけに細やかな配慮。お年寄り一人一人に温かく接するスタッフの姿に、心打たれた半日でした。(取材:井口久美子 写真:木村成男)

初の福祉ボラ大会

「賀川ハル」の講演会や 4グループの余興楽しむ

第1回福祉ボランティア大会が11月20日、学習室で開催され約40人が参加しました。この催しは〈わ〉福祉部会（加藤勇治部会長・8グループ）が会員の交流と組織の活性化を図ろうと総力をあげて取り組んだ初の試みです。

第1部は、「賀川ハルの生涯に学ぶ」と題した講演会。神戸が生んだ偉大な社会福祉活動家・賀川豊彦の妻だったハルの一生は、「女性として幸せだったのか」「家計を守る大蔵大臣としての資質はあったのか」との視点で、賀川記念館語り部チームの郷肥三・横井幸雄さんが、解説しました。

休憩をはさんで、第2部は4グループのパフォーマンスです。トップは明生園もみじ会。門脇淳子さんの伸びやかな歌声でスタート。歌あり、遊びあり（ボール投げ、野球）のプログラムに、会場も一緒になって楽しみました。一寸奉仕からは銭太鼓の3人娘？が登場。「ソーラン節」などをにぎやかに披露しました。サリーを纏いインドの魔術師に扮して登場したのはクレヨンノ北川章子さん。小咄の嘉野喜代子さんと息を合わせ、会場はミステリアスと笑いの渦に。最後は、あんだんての皆さん。懐かしい拍子木とともに、紙芝居『杜子春』の始まり、始まり〜。植村勝さんの名調子にワクワクしました。



第3部は会員同士の懇談会。どうやって新メンバーをふやすか、に話題が集中しました。それぞれのアイデアを披露しながら、「ボランティアは楽しみながら活動することが大切。それが、長く続ける秘訣ですね」との意見で一致。これまで、一堂に会して交流する機会がなかっただけに、貴重な時間となりました。会場前の廊下には、8グループの活動状況が写真とともに展示され、来場者に福祉部会をアピールしていました。

終わってほっとした様子の加藤部会長は、「現役生の参加が少なく残念だったが、初の試みとしてはまずまずだった。反省点と課題を踏まえ、来年度に繋げていきたい」と話していました。

大会を通して、「ボランティア活動って楽しいよ」「生きがいにも繋がるよ」と、心にズンズン伝わって来ましたが、福祉大会に限らずジョイラックデーへの参加者が減少しているのは何故だろうと、一抹の寂しさを覚えました。（取材：井口久美子 写真：木村成男）＝写真は「あんだんて」の紙芝居

麻雀ボランティア

寄稿

現在、東灘区会のボランティアの中で老人介護施設での麻雀を週1回2時間、仲間と活動している。入所者は麻雀の経験者であるにもかかわらず、当初は牌を積むことも出来ず、あがることも出来なかった。メンバーは90歳代後半の男女、80代後半の男女の4人であった。ボランティアの仕事は、牌を積む、配牌、捨て牌の補助、点数計算、片づけ等すべてであった。

ところが1年たつと麻雀日が待ち待ち遠しくなり、牌を積むことは半分位、配牌は自分の前だけは自分で取り、捨て牌は役を考えながら自分で決め、片づけは自分たちですることが出来るようになった。そして何よりも会話が出来、明るくなっ

てきている。勝った時は看護師とハイタッチしている。

老人介護施設で驚いたことは、男性は会話なし、テレビも見ずに座っているだけ、女性は少数の会話だけであった。ものすごく考えさせる光景であった。クオリティーオブライフとはいえない景色である。また自分の終末を考えざるを得ない景色でもある。

囲碁・将棋の相手をしているボランティア仲間になると「当初は圧勝していたのが、最近は勉強されて負けている」とのことである。

囲碁・将棋・麻雀だけの体験であるが、これからの老人介護施設でのボランティアの役割を教えられたと感じている。

長谷川 博（東灘区会）

ボランティアの心

園児と手をつなぎ散歩

福原克巳（福祉1期・垂水区）

幼児期の成長、発達にともない、さまざまな〈つまずき・遅れ・障害〉がある子供たちの通園施設が灘区、長田区、垂水区の3か所にある。私はそのうちの一つ、垂水区の学園で散歩ボランティアを12年間していた。

「散歩とは遠足と同じように園外保育の一つ。夏の暑い時期を除いて毎週水曜、木曜に近くの公園に行きます。公園までの往復を目標に、子供たちの健康な体づくり、豊かな心づくり、往復の道筋で興味のあるものを見つけたり、眺めたり、生きた自然や社会にふれあい、お母さん以外の人と行動して社会生活を体験する」（同園の散歩ボランティアハンドブックから抜粋）

1回の散歩は2クラス（20人）。この散歩に私たちボランティアが園児と1対1で手をつないで付き添う。園児の大半は「言葉が遅い」「お友だちと遊べない」などの障害がある。ボランティアはボディランゲージ、身ぶり、手ぶりで接し、や

がて心を通じあうと、童謡、コマーシャルをいっしょに歌う。公園では、ボール遊び、ブランコの後押し、シャボン玉、滑り台などをやるが、時間はあっという間に過ぎてしまう。

時には「きょうのメニューはなに？」「デザートは？」などとおしゃべりしながら、給食までに園に帰る。

園では連絡帳に今日の感想を書き、保護者がそれを見て返事を書く。子供の成長記録でもある。

昨今は3世代同居が少ないので、おじいちゃん・おばあちゃんと手をつなぎ、散歩しながら、何かを伝え合うことは、子供たちにとっても良い体験になるだろう。私には孫かひ孫と散歩している感覚だ。

以上が〈散歩ボランティア〉のあらましである。KSC垂水会の活動として平成12年1月から始めた。11人でスタート、24人になったこともあるが、現在のメンバーは11人。

グループ〈わ〉でも、灘区や長田区で散歩ボランティアに取り組んではいかが。「子供たちと手をつなぎ、若さをもらい、実に楽しい。逆にボランティアをしてもらっている」というのが私の感想です。皆さんも機会があれば、チャレンジしてみてください。



あっと驚く!?マジックの祭典

第10回マジックの祭典が11月24日午後、県民会館ホールで開かれ、ほぼ満席の300人が不思議ワールドに酔いしれました。

森田明朗委員長の挨拶のあと、現役やOB23組53人が華やかな衣装で次々と自慢のネタを披露。ハンカチやテープ・パラソル・花束が飛び出す伝統的なものから、人が消えるイリュージョン、お笑いとお品をからませた面白系、ユニークな芝居調など、盛りだくさんな内容に拍手・喝采が絶えず、大いに沸い

た3時間でした。親子連れも多く、小3の男児は「マジック大好き。人形が出てくるのが面白かった」と目を輝かせていました。

この大会は、OBのマジッククラブと現役のマジック同好会がお互いの技術を磨く場として毎年開いています。森田委員長は「奇術は喜術。自分でやる喜び、拍手をいただく喜びがある。この会もボランティアを続けて10年経って一区切りがついた。これからも社会のために役立つ活動をやっていきたい」と話していました。＝写真は自慢のネタを披露する会員

暗闇を体験するイベント

暗闇の中で視覚障害者と一緒に様々なシーンを体験し、コミュニケーションの大切さを考える「ダイアログ・イン・ザ・ダーク（DID）」という催しが3月中旬、しあわせの村で開催されます。これに先立って、「DIDとは何か」をPRする講演会が1月30日（水）午後1時からシルバーカレッジであり、参加者を募集しています。講師はダイアログ・ジャパン・ソサエティの志村季世恵氏。1年生の共通授業ですが、OB・市民の参加も歓迎します。問い合わせはカレッジ事務局（TEL743-8100）へ。

カレッジだより



好天の学園祭盛況でした

好天に恵まれた10月13日、第18回学園祭が開かれ市民や卒業生・現役生で終日にぎわい、今井鎮雄学長の姿も見られました。ステージでは合唱・ダンス・マジックなど23グループが日頃の練習の成果を披露。中庭や学習室では27グループが模擬店を出して手作り作品や雑貨、うどん、カレー、クッキー、花苗などを販売。名物のチャリティーバザー、喫茶も大盛況でした。ロビーでは絵画・陶芸・写真・書、俳句などが展示され、多くの人たちが足を止めて見ていました。グループ〈わ〉はカレー店とベトナム料理店をオープン、いずれも早々に完売しました。東北支援募金も多くの方の協力が得られました。(写真はにぎわう中庭休憩所。16面にも関連写真)



17期グループ学習のテーマ

- 健康福祉コース (12月20日発表)
 - 【宿坊巡遊】次の人生へ一歩を踏み出す心意気を養う
 - 【歩々笑み街道】ウォーキングマップを使って健康寿命をのばそう
 - 【グループ・ワッハ】笑って健康増進
 - 【生命】高齢社会が社会的孤立を超えて地域の支えとなるよう対策を考える。
 - 【六甲遊悠】生涯登山として六甲山を歩いて、心身の健康増進に取り組む
 - 【UDで生き生きライフ】高齢者の自立生活を支えるユニバーサルデザイン (UD)
 - 【グループ癒しんぼ】巡礼。歩くことによる癒し
 - 【グループ コスモス】アクティブシニアを目指して
 - 【なるほど!H20】水と生活・健康(生活に水は必須)
 - 【AKB68】健康寿命を長く保つために食の面から学習
- 国際交流・協力コース (12月17日発表)
 - 【グループAKB】シンガポール発展の理由
 - 【ニーハオシルクロード】遙かなるシルクロード紀行
 - 【ビルマ チーム】神秘的国 ミャンマー
 - 【シックス・イレブン】世界を変えた六つの飲み物

- 【シアトル9.】シアトル市民との交流から学んだこと
- 【Korean Power】韓国English Powerの徹底解剖
- 【へちまグループ】みなと神戸の名旅館「西村旅館物語」
- 【チーム大邱】日韓交流の歴史と未来
- 【ogasawara】OGASAWARA 過去・現在・未来
- 【世界を食べる】神戸で世界の料理を食べる
- 【はやぶさ】宇宙の最先端技術を知る
- 【チームマレーシア】マレーシアにおけるロングステイ
- 生活環境コース (2月1日発表)
 - 【脱原発への道】大切な地球と命を子孫に引き継ぐため、原発から安全なエネルギーへの転換を
 - 【シルバー・チェリーズ】食の移り変わり与健康長寿
 - 【環楽会】希少種植物を訪ねて
 - 【フォレスト(森)】森はすべて
 - 【いつまでも歩き隊】高齢者に優しい一万歩マップ
 - 【住宅用太陽光発電】住宅用太陽光発電
 - 【ハイカラ神戸】神戸発の外来食文化
 - 【ハチドリ(の)会】神戸の川の美しい「みずべ」を守り、創るために!
 - 【ピオトープ】ピオトープの今は!!
 - 【エコマークを知ろう会】環境ラベルのあれこれ
 - 【チームたんすの肥やし】衣服と環境・古着の行方を追いかけて
- 総合芸術コース美術・工芸専攻 (2月15日)
 - 【イーナ会】神港園へ寄贈する花器を作成する
 - 【ひまわりの会】KSC周辺福祉施設に陶器を贈呈しよう
 - 【モニュメントの会】美工ならではの表現によるKSCの案内標識を制作する
 - 【悠遊会】装飾技法を使い制作する上の「注意点」、「コツ」の研究。失敗の「種類」、「原因」の究明
 - 【楽陶会】楽陶楽用=楽しんで作り楽しんで使って戴くを旨とし、寄贈先の要求に応じて作陶する
- 音楽文化専攻 (2月26日発表)
 - 【音文17期合唱】「ふるさとの四季」の課題曲を、混声四部で合唱する
 - 【パーカッション17期】いろいろな種類の打楽器のみを使っての、合奏による音楽表現
 - 【和太鼓・楽鼓】和太鼓の知識と技術を学び、グループ全員で楽しく力を合わせた合奏を目指す。
- 園芸専攻 (2月1日発表)
 - 【第1班】①トウモロコシの栽培におけるアワノメイガ防除の研究②西洋かぼちゃの栽培方法の違いによる収穫量の比較
 - 【第2班】①じゃが芋の栽培-芽カキ、土寄せの栽培条件が収穫に及ぼす影響②トマトの栽培-マルチングの有無、1本、2本仕立の栽培条件が収穫に及ぼす影響
 - 【第3班】①スイカの栽培を3種類の肥料毎に個体の糖度、重量、大きさの違いを検証②ジャガイモの栽培を3種類の肥料毎に収穫量の違いを検証
- 食文化専攻 (12月4日発表)
 - 【1班】神戸における各国の家庭料理 【2班】歳時記にみる食文化と郷土料理 【3班】つけ物 【4班】寿司

支持されている新誌面

「よく読む」が大半 本誌読者アンケート

グループ〈わ〉の広報誌をリニューアルして3年。企画内容・レイアウト・カラー化はほぼ支持されており、新誌名「ぎゅらりー わ」ともども定着しつつある――10月号で実施した読者アンケートでこんな傾向がわかりました。集計結果は次の通りです。

(配布数1279、回答数47、回収率3.7%)

●回答者のほとんどの方(93%)に読まれており、東北支援活動などボランティア関連の記事に関心が深かった。

●発行回数は現行の年4回への支持が圧倒的に多く(89%)。年6回(2%)や年2~3回(9%)がよい、との意見もあった。

●誌面体裁・レイアウト・カラー化に対しては、「現状でよい」が72%。「変えた方がよい」は21%。「ページ数を少なく」との意見もあった。

●誌面内容は、「現状でよい」が72%。「変更した方がよい」は19%。

●投稿・執筆・情報提供については、「頼まれたら協力する」が45%。「情報提供ならしてもよい」が30%であり、無回答の方が多数あった。

●配布方法については「現状の郵送方法」30%に対して、「メール送信」51%、「併用」19%とメール送信への賛成意見が多かった。

【ホームページについて】

●パソコンの所持について、「持っている」は87%、「持っていない」は11%であった。

●メールやインターネットの利用については、パソコンを持っている方の全員が「よく利用する」「時々利用する」であった。

●〈わ〉のHPについては「よく見ている」9%、「時々見ている」38%、「ほとんど見っていない」28%であり、存在を知らず、関心が薄い現状が分かった。

●「イベントなどの告知をHPに掲載したことがあるか」に対しては、「ある」2人、「これから利用したい」2人で、大半は「ない」との回答だった。

●提案、意見の一部を紹介すると――

*「以前に比べて非常に読み易くなった」との意見が多い反面、「盛りだくさんでページ数が多すぎる」、「カラー写真の精度を上げてほしい」「カラー不要、モノクロでよい」などがあつた。

*東北支援の記事が多すぎる。〈わ〉本来の活動や

イベント関係の記事をふやしてほしい。

*特定のプロジェクト活動についてはホームページに掲載し、広報誌にはその紹介を載せる。

*ホームページは、更新がアップデートに行われないと妙味がない。

*HPでは本誌にない速報性を活かした情報収集と発信をして欲しい。

*ぎゅらりーの記事を減らし、ホームページに掲載してはどうか。

*ホームページは、一般会員にはなじみが薄い。

【広報から】読者アンケートは2010年に続き2回目。今回は回答数が少なく残念でしたが、意見・提案の趣旨を生かして、誌面内容の充実に努めます。

体裁・内容について、具体的な提案があれば、と思いました。ホームページへの関心が少しずつ高まっているので、さらなる活用方法を考えます。広報誌の配布方法は、「メール送信」への賛成が多かったが、パソコン所有者が会員の半数程度である現状では時期尚早と考えています。

●アンケートへのご協力ありがとうございました。ご意見・提案はいつでもお寄せください。

(まとめ・池田惇、南形徹)



祭典は観客動員が課題に

地域交流の祭典アンケート

◆来場者の住まいは、北区60%、須磨区14%、西区・垂水区9%であり、他区からの来場者は数人。

◆年齢は、70歳以上58%、60~69歳26%、合計84%と、高齢者が大半を占める。

◆上位3演目は、①北神戸太鼓団②手話ソング③男声合唱団。

◆この祭典は、続けて欲しいが73%、どちらでも良いが14%であった。

◆催しを何で知ったかは、わ会員51%、知人32%。

◆改善して欲しいこと。あるは26%、ないは27%、とほぼ同数であった。

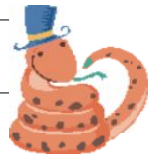
◆「ある」と答えた人の意見・提案は、

①観客が少ない・PR方法の工夫を71%。

②司会の工夫を17% (シナリオを作成)。

(祭典の会場で実施。配布数188、回答数93枚、回収率：49%) (まとめ・井口久美子)

WA からのお知らせ



一ノ谷プラザに植栽

一ノ谷プラザ東・北側のフェンス沿いに昨年末、ベニカナメ、ライラックなどの生垣が完成しました。県の緑化事業として認められ、補助金79万円で40㎡にわたって3種類139本の幼木が植えられました。

「枯らさないように、水やりをしっかりとやって立派な生垣に育てます」と世話役の上田市夫さんは話しています。閉鎖中だった1階のトイレも神戸マラソンに合わせて水漏れなどの修理が終わり、利用できるようになりました。

●家庭内事故の予防で講演会

グループ〈わ〉は1月16日のジョイラックデーに学習室1・2で、2つの講演会を開催します。

①「家庭内の事故予防」（10時30分～12時）。講師は神戸市北消防署救急係長・堤哲也氏。高齢者の転倒・火傷・脳出血・熱中症など不慮の事故を防ぐにはどうしたらいいのか、を学びます。

②学校支援者の集い（13時～16時30分）。「神戸っ子応援団の現状と支援ボランティアに望むこと」をテーマに、市教委担当者の講演と自由討議。

●震災を考える講演会 1月18日（金）10時半から、カレッジホールで。▽「災害時に取り残されないために」相川康子（NPO政策研究所専務理事）▽「東日本大震災と私」池添麻奈（元福島県富岡第二中教諭）。生活環境の合同授業だが、聴講歓迎。

●学園祭から寄託金 第18回学園祭で実行委員会とグループ〈わ〉が共同で実施した東北支援募金の一部、2万5千円が配分金として〈わ〉に寄託されました。賛同くださった皆さまにお礼申し上げます。

●2グループに補助金 2団体から10周年記念行事への補助金が申請され、マジッククラブ（森田明朗代表）に3万円（9月）、コーラス・タルミ（相馬博代表）に5万円（10月）が支給されました。この補助金は、傘下の団体が10周年などの事業をする際、申請にもとづき費用の3分の1以内で補助するものです。

●滝谷ホームの見守り 軽度知的障害者施設・滝谷ホーム（長田区滝谷町）で、夜間、入寮者のお手伝いをしませんか。月・火・水は20時～9時。土は17時～9時。ホームの生活指導員から引き継ぎをうけ、翌朝の起床・食事・出勤までを見守るのが仕事です。交代制で1人月1～2回担当。交通費は出ないが1回6800円～8000円の手当てがあります。神鉄長田駅から8分。市バス150系統滝谷町すぐ。駐車場あり。問い合わせは堀内昭（食6）TEL592-9297まで。

●62号（4月号）の発行は2013年4月中旬です。

〈わ〉のメールアドレス=わ本部 group_wa@wa-net.jp

ぎやらりーわ wa_gallery@wa-net.jp

ぴんぴんコロリ

つよやき

最近、テレビ・新聞で国民の医療費総額が急速に増加していることが取り上げられている。中でも高齢者の医療費が40数%に達し、何とかしなければ、といわれながら具体的な

方策を提言する人が少ない。倫理的には高齢者や命ある者は尊厳の対象であるが、「自分の事を自分で出来なくなっている人」は、なかなか厄介な存在である。

医療の進歩が「人間の自然寿命」を阻害し、無益な延命になっていないだろうか。カレッジの授業で、健康で長生きすることの大切さを教わったが、加えて、医療の利用の仕方や延命についても考えを変えなければ、高齢者医療費の抑制には繋がらない。

医療と倫理のせめぎ合いの問題ではあるが、私は「安易な延命処置の禁止」と「尊厳死の許容」を提唱したい。実現までには時間がかかると思うので、せめて「ぼけ封じ霊場巡り」や「ぼっくり寺参り」に出かけようか、と思う今日この頃です。

（池田惇 生環15・垂水区会）

編集後記



★あけましておめでとうございます。

東北支援活動も3年目を迎えます。仙台の豊齢学園と「一緒にやろう」との話が進んでおり、七夕教室とか料理教室とか、新しい展開が期待できそうです。2回目の東北支援報告会は盛況でした。女川から招いたゲストの話にじーんときた、胸が詰まった、という声を聞きました。東北物産の販売も皆さまのおかげで想定外といえるほどの成果があがりました。

★3年かけて進めてきた本誌のリニューアル。カラー化・情報量・読みやすさなど、読者の皆さまにまずまず支持されているようです。パソコンを持つ会員が増えるとともに、ホームページへの関心も高くなっています。内容充実に努め、より親しまれる会報をめざします。

★シルバーカレッジは創立20周年。阪神大震災の復興と軌を一に歩んできた歳月を顧みて、次のステップへ踏み出す年でもあります。〔再び学んで他のために〕の精神を受け継ぐ、夢のある記念行事・プラン策定もスタートしました。次号には具体的な内容をご紹介しますと思います。（広報・南形徹）

グループ〈わ〉のイベント予定

開催日時・場所	テーマと内容	問合せ先
1月16日(水)10時30分～12時 シルバーカレッジ	実用講座 (自由参加) 家庭内事故防止	グループ わ 743-8101
2月2日(土)10時～12時 竹の台児童館	エコクッキング おから クッキーづくり	グループ わ 743-8101
2月初旬 (詳細未定) マリスタ国際学校	日本伝統文化講座 昔遊びを体験	グループ わ 743-8101
3月9日(土)10時～12時 コムスタ こうべ	エコ スクール 省エネクッキングを体験	こうべ環境未来館 995-3196
4月29日(月)10時～ しあわせの村	バードウォッチング かわいい野鳥と出合いましょう	グループ わ 743-8101
5月5日(日)10時～ しあわせの村 芝生広場	わいわいストリート 昔あそび・動物風船・木工・ケナフを楽しもう	グループ わ 743-8101
7月27日(土)15時30分～ しあわせの村 芝生広場	しあわせの村まつり 食べて遊んで、祭りを満喫しよう	グループ わ 743-8101
8月3日(土)9時～ 4日(日)9時～ 大会議室	昆虫採集 採取した昆虫を標本に	グループ わ 743-8101
8月4日(日)13時～ 神戸市シルバーカレッジ	おもちゃ かえっこ パズール おもちゃを交換し、掘り出し物をゲット	グループ わ 743-8101
8月18日(日)10時～ 大会議室	夏休み工作塾 手づくり工作にチャレンジ	グループ わ 743-8101

竹の台小で体験教室

西区・竹の台小で10月24日、日本文化体験教室が開かれ5年生74人が4コースに分かれて生け花・お茶・銭太鼓・大正琴にチャレンジしました。先生役は〈わ〉のサークル関係者20人。初めに生け花やお茶のマナーを講義、銭太鼓や大正琴の模範演技を披露した後、約2時間にわたって子供たちの実習のお手伝いをしました。

この日は授業参観日で父母らが見守る中での体験教室。子供たちは緊張気味でしたが「知らなかったことが体験できた」「楽しかった」「抹茶は初めて、

苦かったけどおいしかった」「またやってほしい」と満足そうでした。(事業・木田育義)

〈わ〉のグラウンドゴルフ大会

グループ〈わ〉の第7回親睦グラウンドゴルフ大会が24年10月11日、村内の球技場で開かれました。好天に恵まれ20チーム、57人が参加。朝9時過ぎから午前中いっぱい熱戦を繰り広げました。今回から区会やサークル単位でのチーム編成になったため、対抗意識も充分。とまり数が20本を超えました。上位成績は次の通り。個人＝優勝は仲多賀夫(北区A)2位横山邦也(北区C)・3位東本孝次(西区C) 団体＝優勝北区A・2位北区C・3位北区E。



賑わった学園祭 グループ〈わ〉の模擬店も完売。12面に記事。(写真・南形徹)



一の谷でゴール 市民ランナー1万9000人が参加した第2回神戸マラソン(11月25日)。一の谷プラザがクォーター(10^区)のゴールとなり、控室としても使われたので、〈わ〉から3人が出て支援しました。ロンドン五輪代表だった山本亮選手も10^区部門にゲスト出場。「地元なので楽しんで走れた」と声援に笑顔で応えていました。(写真・塚汎)

トピックス

▼東北からの礼状(4面に記事)



文化の祭典(記事5面) 写真・木村成男



神戸文化ホール



仲道郁代 & 神戸市室内合奏団

モーツァルト・コレクション
ベートーベン弾きとして国内外で評価の高いピアニスト・仲道郁代が、神戸市室内合奏団と協演。美しいモーツァルトの世界をお届けします。

- ピアノ協奏曲第20番ニ短調K.466 ピアノ協奏曲21番ハ長調K.467 他
 - 全席指定 4500円(一般) 4000円(神戸文化ホール友の会・神戸音楽友の会)
 - 2月8日(金) 中ホール 開場18:30 開演19:00(地下鉄大倉山駅下車すぐ)
- 【お問い合わせ】神戸文化ホールプレイガイド TEL078-351-3349

*この広告を切り抜いて神戸文化ホール1Fプレイガイドへご持参の方は、本公演チケットが1枚4000円(4枚まで)でご購入いただけます。その他の優待証とは併用できません。